

畜産試験場だより

酪農試験場

年と共にいちじるしい伸びを見せている岡山県の酪農も全国 46 都道府県中乳牛飼養頭数にして第 11 位、牛乳生産量にして第 13 位となり農家経営の中でその占める位置はますます大きな役割をはたしつつあります。それにつれて酪農に関する問題点も数多く登場することが予想され、我々酪農技術者としても新しい気持で大いに勉強し今後の酪農経営の安定的推進をはかるために、少しでも役立ち得る試験研究に精進し、創意工夫と新しい技術的経営的感覚をもって技術者相互の研鑽につとめ酪農推進の為微力をつくしたいと職員一同はりきって居ります。

以下最近のニュースと試験研究の動向をお知らせして酪農試験場だよりといたします。

◎最近のニュース

(1) 昭和 37 年度酪農講習生の募集

酪農の進展と共に地方指導者及び酪農中堅経営者となり得る人材の養成が急務となり昭和 28 年岡山県立中国酪農講習所が発足して早くも 9 年、8 回にわたり 158 名の卒業生を送り出しています。これら卒業生の大部分は地方酪農の指導者として又中堅経営者として期待にたがわず頑張っている居りますが、その就業状況は県関係 29 名、乳業会社 19 名、市町村農協技術者 71 名、自営者 31 名、その他 8 名で本年 3 月卒業見込の 20 名も技術者不足のおりからそれぞれ行く先が決定しています。昭和 37 年度も高等学校卒業者を対照として第 10 回生 25 名を現在募集中で、願書受付期限は昭和 37 年 3 月 15 日になって居りますので希望者は早めに受験手続をお願いします。

(2) 新種雄牛舎の完成

県下牛乳頭数の増加と共に種雄牛の不足を来たし、乳牛増殖上新らたに種雄牛の導入が必要となりこれを収容するブロック建ての立派な種雄牛舎がこのほど完成し、白壁赤屋根の威容を試験場の最も高い所にみせています。この牛舎は建坪 293 平方メートル (91, 194 坪) 13 頭収容で、みがきのかかった飼槽、夏期における冷房装置と牛の保健衛生並

びに飼養管理に万全を期して居り、種雄牛もこの良い環境においては立派な牛を生産しなくてはなりません。

(3) 輸入ジャージー種雄牛のその後

昨年 12 月 13 日アメリカ合衆国ニュージャージー州のマール牧場より輸入されたマール・ファッション・アンソム号も入場後 1 ヶ月を経過し、体重も 348 斤となり精液検査も修了し、今後の岡山県ジャージーの改良に大きな役割をはたすものと期待されています。

(4) ランドレース種豚のその後

待望の赤肉豚ランドレースも未到着分 1 頭が 12 月 28 日到着して 15 頭全頭顔を揃え、長い鼻と大きくたれ下った耳であいきょうをふりまきながら順調に発育し、10 月輸入当時 70 斤位であったものも 10 月 12 日現在いずれも 110 斤から 150 斤となり雌 12 頭中 5 頭はすでに授精をおわり、4 月中頃にはランドレースの豚児の可愛い顔も見られるというところです。

◎試験研究の動向

各研究室とも熱心に酪農に関する試験研究に取り組んで居りますがその内 2、3 のものについて簡単に御紹介いたしましょう。

(1) 乳牛の飼養標準設定のための飼養試験

乳牛の飼料給与を合理化するため我が国の立地条件や飼育事情に適した飼養標準を設定することが必要であるため、農林水産技術会議が主軸となり、昭和 33 年度より 5 ヶ年計画で実施されている研究の一部で昭和 37 年度はその最終年度にあたり、いままでの試験の総合により最後の仕上げがなされる年でその結果が期待されています。今までの結果では従来の N・R・C 飼養標準よりむしろ高熱量の方が結果がよい様に思われます。

(2) 人工育草 (えん麦) の乳牛に対する飼料的利用に関する試験

人工育草器 (パンパス) を 120 万円で本年度施設したのでこれからできる人工育草を乳牛に給与

岡山畜産便り 1962.02

しその飼料的価値について検討しています。現在のところ嗜好性は最初のうちは悪かったが給与を続ける内に良くなり好食しています。この育草の乳牛に対する給与量は青刈とうもろこしを給与している時は乾物量で体重の0・3%程度と思われる。この育草の養分はD・C・P1.71%、T・D・N9.14%とかなり高蛋白でももちろん単味給与はできませんが、これを給与すると泌乳効果を高めることは確かのようなのです。

(3) 地域的な飼料成分調査

飼料を給与する時は飼料計算に基づいて給与されていることと思いますが、皆さんの所で使っておられる飼料をできるだけ多く組成の分析を行ない、その栄養価値を判定し少しでも御参考としたいと思っています。勿論飼料の栄養価値は地方によって大変違ってきますし、成分表にないような飼料を使っておられるところもあるでしょう。このような問題をできるだけ早く解明するため努力しています。現在まで約500件ばかりの分析を終っておりますがまだまだ不明な飼料が沢山あります。分析を終った飼料はいろいろの機会に発表していますが、もう少し分析件数が増えましたらまとめて印刷物にして発表いたしたいと思っています。なお一般の飼料作物・配合飼料の他に皆さんの所で特に使っておられるとか、栄養価地のわからないようなものがありましたら御連絡下さい。

(4) デイリーパイロットファームの経営に関する研究

昨年の5月から場内に自立農家の酪農規模を想定して、4頭の乳牛と1・05ヘクタールの圃場に専従者1名を配置して酪農経営上の諸問題を解明するための経営試験を行なっています。毎日の労働時間や、圃場の輪作形態、飼料の自給計画等の問題を刻明に記録し又各分野の新技术の適応価値を診断し、自立農家の多頭飼育技術体系を確立し安定した酪農経営を営むための基礎を作りたいと思っています。

(5) 牧草及び飼料作物の栽培利用に関する研究

牧草及び飼料作物の栽培利用に関しては

(イ) 牧草類優良系統栽培採取試験

(ロ) 飼料作物の高位生産に関する研究

(ハ) 飼料作物耕種基準設定に関する試験

(ニ) 牧草類の栽培利用に関する研究

等種々の試験研究がいずれも昭和34年度頃から継続してなされていますがその結果は逐次発表していますので参考にして十分に御利用願います。